

浦安とみおか川柳会

五月例会結果

日時： 令和4年5月10日(火)
 出席者： 真田宣子、塩見和昭、谷口勝、
 長谷川智、三浦みちえ、光永ひかる、
 森山裕子、山岸順、山口しだれ、山口昇柳

講師： 佐藤青樹

点数
 講師
 推奨
 課題「初心」互選 講評*佐藤青樹

7 ●金バツチ初心忘れて舟を漕ぐ 裕子

「舟を漕ぐ」で絵が見えました。

6 子の未来あれこれ思う母子手帳 裕子

母親の新生児に対する初心の句でしようか。

「あれこれ」で焦点がぼやけてしまったのでは

参考：健やかに育てと祈る母子手帳

5 靴ひもを結び直して新世界 宣子

「靴ひもを結び直して」で「初心に帰り」新世界：新天地を

目指すという句。具体的な新世界の絵が見えるように

入社式日本を背負って立つ気概 みちえ

入社式なのに会社でなく日本を背負って立つ気概すごい

●靴の紐きりりと結ぶ入社式 裕子

「きりりと結ぶ」で決まった句

4 つまずくと初心に還る師の教え 順

一読明快の句ですが、リズム感を勘案し

参考：自分史を書いて初心を思い出し

カプセルに埋めた決意掘り起こす 和昭

一読明快の句

3 神様に決意伝える五円玉 ひかる

決意を五円玉で伝えるのは面白いが、余韻少ないのでは

参考：五円玉投げて決意を神に告げ

日々追われ初心どこかへ置き忘れ 勝

「分かる、分かる、そうだね」の同感句。仕事や家事

の煩雑さにまぎれ、初心など忘れがちですよね

参考：生活に追われ初心をつい忘れ

2 本が好き昔ダンサー今作家 ひかる

本が好きだったダンサーが今作家になったのでしようか

参考：ダンサーが一念発起直木賞

●四度目のチャレンジをする英会話 勝

この句も「分かった、分る」の同感句。着想が上手く面白い

1 ふる里にこころざしだけ置き忘れ 順

男子「志」を立てて郷関を出たけど、その志を故郷に

おいてきたという着想が面白い

足萎えて再度挑戦スクワット しだれ

「再度挑戦」で「初心」を上手く表現できました

●古里に戻り不馴れな農を継ぐ みちえ

「不慣れな農を継ぐ」で「初心と決心」の程が伺え、絵が見える

お茶稽古初心忘れてマンネリ化 しだれ

句意は分かりますが、余韻が少ないのでは

参考：茶道への初心忘れて手を打たれ

ゴミ捨てる場所もわからぬ退職後 宣子

退職後はゴミ捨てだつてやれると決めたのが「初心」なのでしよう

参考：ゴミ捨ててもやると決めた定年日

●習い事三日坊主で月謝無駄 智

この句も「分かった、分る」の同感句。着想が上手く面白い

●本棚に初心だらけの入門書 順

この句も「分かった、分る」の同感句。着想が上手く面白い

自分史を書き出し初心思い出す 勝

一読明快の句。リズム感を勘案し

参考：自分史を書いて初心を思い出し

課題「くらくら」二人選 真田宣子選

秀	客	人	地	天	軸
溪谷のつり橋揺れて高所酔い プーチンの暗殺噂足震え ミニスカの伸びた素足に目をやられ よさこいのリズムに乗って目が回る くらくらになるまで入る美人の湯 印を押しローン地獄の幕が開く テキーラでちよっと酔わせて杖になる ホットヨガ決めたポーズで立ちくらみ 桁外れ国の借金知る怖さ 慣らされて揺れの大きさが肌を知る 快晴の空が眩しい徹夜明け 断層とマグマの上に立つ震え 兄貴風吹き財布がめまいする 片足で靴下はけず壁の世話 君の香り風にゆられて目眩する トントントン階段降りて立ち眩み	勝 しだれ 和昭 みちえ みちえ 裕子 みちえ ひかる 和昭 裕子 裕子 順	智 和昭 順 しだれ 和昭 ひかる 宣子	自由吟 森山裕子選		

課題「くらくら」二人選 塩見和昭選

秀	客	人	地	天	軸
ホットヨガ決めたポーズで立ちくらみ 寝不足へ強い陽射しの立ちくらみ 君の香り風にゆられて目眩する よさこいのリズムに乗って目が回る 兄貴風吹き財布がめまいする 溪谷のつり橋揺れて高所酔い 猛暑日にエアコンけちり救急車 印を押しローン地獄の幕が開く 快晴の空が眩しい徹夜明け タワマンを見るたび眩むコップ酒 テキーラでちよっと酔わせて杖になる 正論を曲げず吊り橋渡り切る 断層とマグマの上に立つ震え ミニスカの伸びた素足に目をやられ 桁外れ国の借金知る怖さ 慣らされて揺れの大きさが肌を知る	ひかる しだれ 宣子 みちえ 順 勝 勝 裕子 裕子 順 みちえ ひかる 裕子	勝 ひかる 順 勝 みちえ	妻の春納骨終えて仰ぐ空 砲撃の力に優るツイッター ボルシチを温め祈る平和の日 メルカリにあったまさかの金メダル 厭な奴みんな除けば独裁者 上げた手を下ろしどころのないロシア 円安に銀座は遠い街になる 気にしないことで平和な風が吹く ヒマワリの国へ非情な鉄の雨		

例会のお知らせ	日時	令和4年7月12日(火) 13:00~16:00	「犬吠」5月号 掲載会員句	春深しざわつく心冷やす雨(宣子)
	場所	富岡公民館		早春のアカツメグサに気をもろう(みちえ)
例会のお知らせ	課題	「小粋」互選	:	老骨に昭和の歌が響き合う(勝)
		「がっかり」二人選		梅蕾ふっくらピンク笑み誘う(しだれ)
		自由吟		あつぱれや米寿みごとな食べっぷり(昇柳)
〈浦安川柳大会案内〉		令和4年7月16日(土)浦安市民プラザ		ウクライナ思い十指が鶴を折る(裕子)
				終章の点睛を欠く人生譜(和昭)
				自分捨て他人の顔へ美容外科(順)

川柳いろいろ

没句

互選句（初心）

書き初めの初心の文字が上手くなり
太平洋横断の夢またトライ
親離れできぬ子供も成人に
幾つでも始めの気持ちすぐ忘れ
道半ば熱い思いを胸に聞く
免許とり若葉マークで事故恐れ
高速で若葉ともみじのカーチェイス
外筭高価忘れ雑使い
病名へ初心に返り再検査

一人選句（くらくら）

袋とじ開ける前から立ちくらみ
明暗が生国により分けられる
二次会のおぶない上司誘いごと
戦争と言っただけでも排除され
目を覆うキエフの廃墟いつ住める
恋敵にひたすらシヤドーボクシング
朝日浴び徹マン帰り目がくらむ

自由句

大谷がホームラン打ってリズム良し
行き当たりばったり生きて古希になる
金メダル呪縛の中で空回り
新緑の初めへ戻る心地良さ
悲しさに凍ってしまふ胸の内
コロナ減待ってましたと人あふれ
嫁さんの母の日祝いいつまでか
アマリリス夢をちようだい水注ぐ
母かせぐテラー安月給に金くれた
ガラケーで頑張るシニアあと少し
取り壊す家のサツキも咲き誇る
ウイズコロナ今年を謳歌する
義母楽しく生きて百九歳立派

川柳の理論と実践

新家完司

良い川柳とは

①良い川柳はひとの心を揺さぶる強いエネルギー、詠んだ人の生き方を変えてしまう程の力を持っている。

「敗けた国宮城道雄の琴が鳴る」この句に出会い川柳という文芸は一生かけて取組む値打あるものだとし心新たにしたい。

②良い句は体験と体感から生まれる
体験句 「デパートの椅子でうたた寝して帰る」
体感句 「寝ころべば青い窓から降るさくら」

「エプロンでちよつと庇える秋の冷え」
体感句 「ふらつきに気づく程の酔い心地」

③自分が感動すれば自分には良い句
人はそれぞれ性格、環境、思想、宗教観も異なる。所謂「川柳観」が異なる。自分が感動した句が良い句である。敢て言えば「多くの人のこころに響く句」と言える。

④良い川柳を作ろうと意識するな
体験、体感を素直に表明する、良否の評価は他人に任せて恐れず作り続けること。そのうち見極めが出来るようになる。

うまい川柳とは

①うまい川柳は悪い川柳なのか うまく作ってはいいるが：
・気の利いた言葉を使っているだけ、比喩がうまいだけ
・よく言われていること、諺、格言を言い直しただけ
・実感の伴わない机上の作品である： 文芸の世界では「うまい」は否定的な意味で使われることが多いようだ。

②うまい川柳は論理的に作りだされる
独自性のある考えを述べることにより生まれる。論理的に作りだされると表現した方が適切である。
「我が子だがその半分は時代の血」 独自性 共感度
「双方の意見を聞けと耳二つ」 納得させる力
「付き合いは挨拶程度昼の月」 客観性 具体性

③うまい川柳は意識しなければ作れない
対象を見つめ発見した事柄に対して知恵を絞らなくてはオリジナルな見解にたどり着くことは出来ない。
常識や定説をそのまま納得するのではなく「もつと他に考えはないか」と頭を巡らすことから川柳は生まれる。
見捨てられている小さなものに新しい価値を見つけることは川柳作家の本分であり使命でもある。

鑑賞 犬吠賞 平成二十七年度

大賞 津田と志子

卓袱台に丸く座っている昭和 福田岩男

準賞 花の下今年も日本人になる こそこのゆき

新人賞 北斎の富嶽富士より富士らしい 佳作

忘れた人などいない写真帳 新田千尋

四季あつて四季に追われている暮らし 根岸ムベ

犬とならちゃんと合わせている歩幅 川口雅生

笑顔して今日も笑顔に会いに行く 相葉和子

煽ても乗って見せませ生き上手 根岸ムベ

佳作 生きのびて落ちる夕日と握手する 藤井敏江

相つちを打って心に嘘をつき 高田文子

狂わない時計ばかりでつまらない 吉野千枝子

三ツ星でないが飽きない妻の味 加茂英代

さくら餅みんな平和な顔になる 豊田初枝

飛行機が平和な音で飛んで行く 松田栄子

福島は忘れましたと再稼働 川崎火呂志

ふるさとは元氣か天気予報見る 田辺サヨ子

四点 三十回嘔んで余生を持って余す 舟崎美恵子
まだ恩を返しきれない般若経 宮内みのり
歩きながらマツクを食べば若返る 増田幸一
枯れぬよう狂わぬように花時計 佐藤公江
努力していますペーは遅いけど 堀ノ内静雄
歳はもう教えていない誕生日 米島暁子
いい日だった駅の花屋でバラ二輪 吉野千枝子
寒いね応える人のいる朝餉 林 はな
する事は有るけどしたい事がない 今別府文乃
都市砂漠青いリングが腐り出す 佐藤公江

互選句 課題 「ばれる」 令和四年 五月例会

浦安とみおか川柳会

18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
美人すぎるやっばりばれた喉仏	ばればれの夫の嘘に妻寝言	墓場までだまし続ける覚悟あり	賞で知るサバを読んでた時の女	目をそらし「僕じゃないよ」へ嘘ばれる	突然に干支を聞かれて歳がバレ	ままごとに我が家の内緒漏れ出でて	手が震え君の話の裏とれる	海上保安庁書類そろえば管理なの	片思い日記帳だけ知っている	一字一句まねしてばれたカンニング	記念日を忘れた訳がもろわかり	ネズミ取り呼気検知器に逃げ損ね	女優なら剥がしはしない化けの皮	露の嘘へ国民気付く日を望む	おままごと我が家の会話すべてばれ	フライデーすっぱり抜きます忍ぶ恋	ゴミの中菓子の袋を見つけられ	
36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	
						潜水機カメラが暴く残らずに	おめでたがばれてしまったローヒール	悪友が身ぐるみはがす披露宴	大物をつり上げばらけ肉に化け	文春に夜の行状暴露され	箸使いお澄まししても里が知れ	言い訳の探る目つきへ嘘ばれる	寝たふりをして待つ子等のクリスマス	うっかりと寝言も言えず口テープ	ばれても知らぬふりして話聞く	暴かれて深い海こそ恐いとこ	寝言からばれたか妻の薄笑い	